2011 年度下泉教育実践奨励賞受賞者

本学会では全国大会（冬の大会）での口頭発表およびポスター発表された研究の実践者を対象に**下泉教育実践奨励賞を授与している。下泉教育実践奨励賞の趣旨は、**幼稚園，小学校，中学校，高等学校，中等教育学校および特別支援学校での，工夫や独創性に富んだ優れた教育実践を顕彰することである。

第 92 回全国大会（兵庫大会）における 2011 年度下泉教育実践奨励賞は、審査委員会の報告をもとに，理事会にて以下のとおり決定した.

１　2011 年度下泉教育実践奨励賞受賞者

○　大村千博会員

演題：地衣類ナミガタウメノキゴケの移植実験と大気汚染との関連調査

○　小川博久会員

演題：生命を実感するマイウニ飼育の実践と生徒の意識の変容

○　佐藤紗智子会員

演題：生命に対する探求心を高める効果的なデジタル教材の作成と授業実践－卵殻内培養をいたニワトリの発生の継続的観察－

○　藤枝秀樹会員

演題：高等学校生物における探求活動の在り方を探る－科学プロセススキルの育成をはかる実践－

○　山野井貴浩会員

演題：生物共通性と多様性を「進化」でつなぐ－オリガミバードαと分子系統樹実習の併用効果－

２　受賞者の研究概要

受賞者の研究はいずれも教育実践を踏まえたもので，下泉教育実践奨励賞の名にふさわしいものであった．それらの概要は以下の通りである（50 音順）.

○大村千博会員：中学校の科学クラブ活動の一環として，ナミガタウメノキゴケを用いてその成長を約１年間にわたって毎週調査した結果についての発表である．二酸化炭素や浮遊塵の量などの大気汚染との関係を長期にわたって調査した実践が評価された．指導の教育効果についても分

析されているが，生徒が少数なので教育効果の判定ができないのではないかとの意見もあった．

〇小川博久会員：受精したバフンウニの飼育・観察を行い，稚ウニに変態させて放流するという授業実践を７年間積み重ねた報告である．各生徒が飼育している生き物に名前をつけさせ，放流までさせるという実践が素晴らしいと評価された．

〇佐藤紗智子会員：卵殻内培養法という学生時代の経験をうまく現場での実践に生かしているところが評価された．生徒実験ではうまくいかないところをデジタル教材で補うという方法で，形態形成過程を視覚化する実践は独創性も高く，成果を上げている．この教材は卵殻内培養法ができない他の授業者も利用することができる．実践に対する教育効果の測定もきちんとされている．

〇藤枝秀樹会員：高校生物に探究活動をどのように取り入れるかについて工夫しながら実践しているだけでなく，科学的コミュニケーション能力を育成しようとするところの問題のとらえ方が的確である．アメリカ視察の成果を生かしている視野の広さなどが評価された．一方で，評価の仕方についてはもう少し深化させる必要があるのではないかという意見もあった．

〇山野井貴浩会員：実習的な教材があまりない進化学習の分野において効果的な教材を提案しているところが評価された．ただし，実践としてはおもしろいが結論の方向性を決めすぎてはいないか，生徒の理解度は発表者の解釈のようにはなっていないのではないかとの意見もあった．

３　審査委員会から

１）今後の発展に期待すること

下泉教育実践奨励賞はその名が示すように，授業やクラブ活動における実践的な取り組みを奨励するための賞である．受賞対象となった研究はいずれもこの点に合致した優れたものであった．しかし，奨励賞に応募した研究発表の中には，研究自体は独創的で優れていても実践を伴わないもの，児童・生徒が主体となった実践でないものが散見された．今後は本賞の趣旨を十分理解して応募していただきたい．また受賞対象となった優れた実践的な研究の中にも，実践の評価が十分でないものもあった．優れた教材であるのだから児童・生徒にどのようにはたらきかけ，その結果として児童・生徒がどのように変わったのか，あるいは変わらなかったのかを検証し，さらに良い実践へ発展させることが望まれる．この点は昨年度の審査報告でも指摘されていた課題であるが今一度指摘しておきたい．

２）奨励賞の今後の課題

本奨励賞に対して多くの応募があることは，会員の研究意欲の高さを示しており歓迎されるべ

きことである．しかしながら時間的制約のある全国大会において，審査が大会運営の負担にならないよう配慮しなくてはならない．また，前回までの反省から審査委員会の負担軽減を図るため，理事会において検討を行い，１人の審査委員が審査する演題の数は６件以内となるようにした．

「今後の発展に期待すること」でも述べたが，実践的な研究に対しての賞なので，その実践結果の評価が重要である．この点が不十分な研究や研究自体の完成度の低い状態のものも散見された．応募にあたってはその点も留意して申し込んでほしい．また，SSH および SPP 事業の一環としての教育活動についての応募では，審査対象となる研究活動に対する応募者自身の貢献度にも留意して審査する必要がある．応募者はどこが自分自身の発想で取り組んだものであり，どの部分が研究機関等の応援を仰いだものかを明確にして発表してほしい．来年度もたくさんの独創性あふれる授業実践についての応募があることを期待している．